

1 災害リスクを考慮した安全・安心なまちづくり

近年、自然災害の増加や甚大な被害が発生し、防災・減災対策を強化する重要性が益々高まっていることから、国・県と連携した河川整備やインフラの耐震化等のハード面での対策に加え、分かりやすい災害リスク情報の提供やこれを踏まえた土地利用の規制・誘導等のソフト面の対策を多重的に講じることで、安全・安心で持続可能なまちづくりを進める必要があります。

2 持続的発展を実現するまちづくり

人口減少と超高齢社会が急速に進行していく中、すべての市民が充実した医療、保健・福祉サービスを受けることができる環境のもと、安心して子どもを産み育て、誰もが生涯を通じて心身共に健康で自立した生活を送り、地域社会に積極的に参加し、活躍できるまちづくりが必要です。

また、せせらぎや緑などの自然と歴史・文化が感じられるまちに活気が生まれ、生活を支える都市基盤が整備された快適で暮らしやすい生活環境の実現や、財政面及び経済面で持続可能な都市経営が求められています。

このため、市内の拠点となる箇所に生活サービス施設を、その周辺に居住をそれぞれ緩やかに集約・誘導し、それらを公共交通でつなぐ「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進め、地域経済の活性化や生活利便性の維持・向上を図る必要があります。

中心市街地においては高次都市機能の集積を重点的に推進し、広域主要幹線道路沿線等においては産業集積を図るとともに、市全域においてスマートシティの実現に向けた取組を加速化することで、都市の持続的発展につなげていきます。

合わせて、所有者不明土地・低未利用土地の発生を抑制するため、国における法制度の見直し等の動きを踏まえ適切に対応していく必要があります。

3 美しく品格ある都市形成に向けたまちづくり

鉄道・幹線道路などの交通利便性を活かした都市的土地利用と、豊かな自然や農地を保全する自然的土地利用が調和する、美しく品格ある都市形成が求められています。

中心市街地では、市民の身近な憩いの場として親しまれているせせらぎや豊かな緑の維持保全を図りながら、効率的かつ合理的な土地利用を促進していく必要があります。

箱根西麓地域では、優良農地や良好な森林地域を維持・保全・育成し、営農営林環境の向上、自然環境・水源かん養機能・生物多様性の保全等に努めることを前提とした上で、富士山・駿河湾等の良好な景観や史跡・名勝及び歴史的風致等、地域特有の観光資源を活用した観光・レクリエーション施設の集積を適切に誘導していく必要があります。